



自転車社会の環境改善を目指して No.38

静岡市「自転車利用計画」その背景と課題 自転車先進都市を目指すために、 今、求められているもの

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員
都市交通デザイン会議主宰
しずおかモビリティ研究会代表

村井 裕



事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階
TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>

静岡市は2034年を目標に世界水準の自転車都市を目指し、昨年、「自転車利用計画」を策定しました。自転車活動家として20年間、静岡を見てきた者の目線から、この計画についてまとめてみました。

コンパクトシティで

シビックプライドが創られるまち

富士山を望む日本平、三保松原などの景勝地に囲まれ市域面積の10%未滿しかない平野部に人口の約98%が集中していることから、静岡市は天然型のコンパクトシティともいえます。

天下人徳川家康が愛した日本一の城下町。そして最後の將軍慶喜公が自転車で走ったまち静岡は、多様な文化と資産が育まれた都市であったことが、市民のシビックプライドを創出した要因かもしれません。

自転車を利用しやすい環境で 高いポテンシャルはあるが、 多くの課題も抱えている都市

- ①雪が降らない温暖な気候
- ②人口が集中している市街部は坂が少なく平坦な地形
- ③通勤・通学利用率20.7%
- ④市営の駐輪場34箇所です約16,000台分
- ⑤自転車ネットワークは平成26年度末で全体計画354.8km

と自転車を利用しやすい環境で、高いポテンシャルがある静岡市です。さらに市内の通勤・通学目的における自転車分担率は20.7%で、政令指定都市平均14.8%を大きく上回り、大阪市、京都市、岡山市に次いで政令市第四位になっています。自転車施策を進める上で絶好の立地条件を備えた都市ともいえます。

自転車の交通違反(平成25年度静岡県警察資料より)は年間で約12,000件、違反内容は

- ①一旦停止約4,800件、並進走行2,900件、通行区分1500件。
- ②自転車が関係する事故(平成25年度静岡市の交通事故統計より)は年間で1,500件、死傷者数は年間で約1,500人。
- ③放置自転車(平成25年度静岡市調査より)は静岡都心部において1日当たり約2,000台、都心部にある地下駐輪場利用率は約54%収容台数で約2,000台という状況からも察せられるように自転車利用のルール・マナーやモラルは高くありません。

市民を交えた協議会や高校生が 参加したワークショップを 反映させた自転車利用計画

高いポテンシャルを生かしつつも、更に自転車を利用しやすい環境

を作るために「ルール・マナーの徹底」と「モラルの醸成」が必要と判断し、利用環境の「ハード」、利用意識の「ソフト」、利用促進の「マインド」に一元的に取り組むことになったのが自転車利用計画です。静岡市は市民参画と全庁的な体制で、自転車利用計画を策定したのです。

自転車利用計画の先に見える 世界水準の自転車都市

- ①「健康」の増進－自転車の積極的な利用により健康的な生活が送れるまち
- ②「環境」負荷の軽減－車よりも積極的に自転車を利用することで、環境に優しく、快適に生活できるまち
- ③「利用」の促進－誰もが手軽で安全に自転車を利用できるまち
- ④「賑わい」の創出－国内外のサイクリストや観光客が何度も訪れるまち
- ⑤「モラル」の向上－ルール・マナー



静岡市自転車MAPの試走とワークショップに参加した皆さん



協働で作成された静岡市自転車MAPと三保自転車MAP



田辺静岡市長から「けいきさん謎の究明復刻令状」を交付された4人のメンバー

を守った走行や駐輪ができる市民のモラルが高いまち

⑥「プライド」の確立—自転車に関する意識が高く、市民が「世界水準の自転車都市“しずおか”」と誇りに思えるまち—の6つを基本目標として、自動車中心のまちから、人が中心のまちへと変わっていきたいというのが自転車利用計画の目標です。

想定される世界水準の自転車都市・静岡の具体的なかたちは、適切な移動手段の選択ができ、自転車利用者自らが法律を理解し、ルールとマナーを遵守した、モラルの高い都市となります。

自転車利用計画は、 自転車利用促進に繋がる新しい波

今年3月末には、静岡市自転車MAP「休日版」と「平日版」が自転車利用計画に基づき「(株)シマノ」と「自転車活用推進研究会」に協力をいただき、市民・学生と「常葉大学法学部地域法政策研究・実践センター」、「静岡観光コンベンション協会」、「しみずママチャリライド実行委員会」、そして「しずおかモビリティ研究会」との協働で作られました。

「休日版」は、コース紹介だけで

はなく、自転車の楽しさを身近に感じてもらう情報と運動効果についても掲載しています。さらにこのまちで暮らす市民をくすぐるようなまちみがきの視点も盛り込まれています。多くの市民が参加したコースの試走とワークショップを通して、このような自転車マップが誕生したのです。

「平日版」は、通勤通学時の自転車利用計画を促進するとともに利用者のヒヤリ・ハットマップとして、市内の高校生や通勤者の声を集約したものです。ルールとマナーの特集や自転車通勤と健康について掲載し、自転車の利用促進も意識しています。このように自転車マップは、自転車利用計画の情報ツールとして多くの市民に届けられています。

次に市民のシビックプライドがくすぐられるような「けいきさん自転車復刻プロジェクト」がこのほど、スタートしました。自転車都市・静岡の発信に向け、いち早く自転車に乗ったとされる徳川幕府最後の将軍・慶喜公の自転車にまつわる謎を探るものです。私をはじめ、静岡市で自転車と慶喜公に所縁のある方々の四名のプロジェクトメンバーと市民の協力で調査・研究が進められて

いきます。現在、自転車都市・静岡の歴史を紐解くような資料が発見されており、年内には報告会を予定しています。この機会に自転車を通じて新たなシビックプライドの創出につなげたいと静岡市は考えています。

自転車先進都市を目指すために 必要なものは何か

世界の自転車都市と出会う度に、共通するカタチがあることに気づかされます。今までも行政や企業、大学から協力をいただいて活動してきましたが何故か、自転車の先進都市との距離はいつか詰まりません。そのジレンマの中で、主体となるべき私たち市民の本気度(ヤル気)が足りないから行政も企業も本気度が出ない、出せないのではないかと考えるようになりました。つまり主体となる私たち市民が腹を据えて取り組まなくては、真の産学官民は生まれてこないことに気づいたのです。

世界の自転車先進都市には、行政や企業をリードし自転車利用促進を図る市民団体がシンクタンクのようなカタチで存在します。静岡市は世界水準を目指す都市に向けてスタートしました。この壮大なプロジェクトを成功させるためには、ここで暮らす市民が活発に自転車の政策提言や情報提供が行える体制や組織が必要です。そのためにも今、静岡には行政や企業、そして大学からも積極的にアプローチされるような想いのある市民団体の力が求められていると私は考えます。 **PP**



「自転車検定」を始めました

インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ(<http://www.cyclists.jp/>)からどうぞ。